

# KSKQ あかねニュース No. 65

川西市障害者共働作業所あかね  
〒666-0017 川西市火打1-5-19

Tel&Fax 072-755-4101  
ホームページ [akanesan.net](http://akanesan.net)  
E-mail: [rassyai-akane@deluxe.ocn.ne.jp](mailto:rassyai-akane@deluxe.ocn.ne.jp)

## 「HELP」の時代(その②)

今回は、ガイドヘルプ(移動支援)事業の沿革(生い立ち)と、その効用を中心に述べました。

国の障害者施策の一環としての移動支援事業への「給付」の仕組みや内容が、試行錯誤を経ながら、利用者や支援者の要望を受けて少しずつ改善に向かってきた経緯や、ガイドヘルプ活動が、利用者の「地域でふつうに暮らす」手段として有効であるのみならず、ヘルパーや利用者の家族に対する「ヘルプ」の側面をも併せ持つ・・・というようなことなどを申し上げました。

今回は、そのガイドヘルプ活動が現在抱える問題点や課題を、「あかね」の場合について確認・検証してみたいと思います。  
あかねにおけるガイドヘルプ事業

の問題点は、私の認識するところでは、次の3つです。

①この活動が、あかねの利用者にとって本当に役に立っているか？

②ガイドヘルパーの待遇条件は、他の事業所のガイドヘルプ活動におけるそれと比較して、見劣りするのではないか？

③利用者の保護者の、ガイドヘルプ活動に対する認識・考え方に、個人差がありすぎるのではないか？

まず、①の問題ですが、「本当に役に立っているか」ということは、利用者の自立への支援となっているか？ということでしょう。では、「障害者にとって自立とは」という議論になります。  
狭義では、日常生活動作の自立

とか、住や職の自立とか、いろいろ言えますが、「障害があっても施設でなく、地域で自分らしくふつうに生きる。」といったことだと思います。ふつうに、たまには酒を飲んだり、映画を見に行ったり、散歩に・山登りに、電車に乗って出かけたなりといったことが、ふつうに出来る。ただ、切符購入・お勘定・トイレ・食事・道案内等々、一人では出来ない？やっただことがない？やれるかどうか分からない？ことなどをヘルパーがヘルプする。このようにハードの面では、役に立っていると思います。

しかし、ソフト面、利用者のニーズを引き出したり、自己決定を促したり、社会との関わりの接合や、利用者やヘルパーの関係作り等々の面では、ヘルパーの自己満足に終わってはいないか？(自省をこめて)といったことが、課題

毎日発行 一九九一年九月三日 第三種郵便物認可

頒価 定価 一〇〇円

になります。

②については、ガイヘルの行動範囲に制約が出来ることと、ヘルパーのモチベーションにブレーキがかかる、という点で「問題」となるのです。

利用者のニーズを満たすためには、或いは、こんな所へ連れて行ったら喜ぶだろうなあというヘルパーの想いを実現するには、「魅力的なガイヘルの場合」が不可欠になります。それらは往々にして遠くにあつたり、高価であつたりします。

あかねのヘルパーの時給は、事業で収支バランスを保っていく上では精一杯の金額なのですが、ヘルパーがガイヘル活動に要する交通費・食費・入場料等はすべて個人負担なので、ヘルパー給では当日のコストの補填で精一杯、行き先によっては「足が出る」こともまれではありません。

それでも、快く行ってくれるヘルパーさんも少なくなく、感謝感謝なのですが、そういうのも甘えてばかりいるわけにはいきません。

他の事業所などの運用実態なども、集め

て、今まで長いこと避けて通ってきたこの問題に直面しようと思えます。

そして③については、これこそ避けて通れる問題ではありません。

ガイドヘルプという制度そのものに対する不信感から、「あかね」に対する不信感まで、具体的には「うちの子はヘルパーなしでもちゃんと行きたい所へ行つて楽しんでこられる。余分な金もかかるし、ヘルパーに手とり足とり指導されるのはうつとうしい」とか、極端なものでは、「気が進まない所でもみんなが行くので一緒に行かざるを得ない。あかねの資金稼ぎになつていのではないか」などという声まで聞こえてくるのです。

もとより、今のガイヘルが最適な状況とは思っていませんが、ガイヘルは必ず利用者にとつて多くの発見・楽しみ・感動をもたらしてくれれます。

さらに、利用者の「親なきあと」を「施設」ではなく「地域」で生きていくことを望むのであれば、ヘルプしてくれる人たちの輪を築き上げていっている、とも言え

ます。そのあたりを十分理解していただくために、保護者の皆さまとあらためて会を持ちたいと考えています。

今日の社会で、なんらかの助け(HELP)を必要とし求めている人たちの何と多いことでしょうか。

障害者・高齢者に限らず、極論すれば私たち誰もが「HELP!」と叫び、そのようなシグナルを発信しているのかもしれない。

パソコンの操作に困ったときヘルプとクリックすれば、瞬時にしていくつかの救済の選択肢が示されますが、人が人に求める「HELP」は、数学や物理学の数式や法則によって答えが導かれるものではありません。

人と人が対面し、スキンシップする中から、少しずつ求める解が見えてくるでしょう。あかねのガイヘル活動が、利用者ヘルパー・保護者のいずれのヘルプのニーズにも応え得るモノであるよう、これからも試行錯誤していききたいと思えます。

芳川 雅美(補筆 内海)

毎日発行

一九九一年九月三日

第三種郵便物認可

頒価

定価

一〇〇円

# ～時の流れの中で～

今、世の中はインターネットの時代。あらゆる情報をパソコンを用いて得る。しかし、私のように高齢者にとって、いや、知的障害者にとって、そんなものは使えない。どんどん時代から取り残されていくのだろうか？

ほんの三十年くらい前までは、買い物に出かけて、言葉を使わずに品物を買って来ることなど考えられなかった。(泥棒以外は)

「おばちゃん！これ、頂戴」

「はい、〇〇円だよ」

「ありがとう」こんな会話くらいは、当たり前にとり交わされていたもの。

言葉を話せない人には、相手の人が心配りして、

「何を？買いに来たの」

「これ？はい、五百円だよ」

「・・・」身振り手振りでお礼を言つて、さようなら！

地域の中に、スーパーマーケットが出現

して、個人商店が消え、黙って自分の欲しいものを買って来ることが出来るようになった。「おばちゃん、そのお肉二百グラムちょうだい！」なんて云わなくても、パックに入った肉が並んでいて、好きなものを選びレジへ。言葉など要らない買い物風景になってしまった。それでも、まだ、スーパーへ出かけると、人と接する機会があった。

どんどん、文明が発達し、今では家の中にいて、誰とも接することなくパソコンという機械を操れば、何も不自由はないという。

だんだん、今の若い人たちは、他人と話しするのが苦手で、「うつとうしいから」

飛行機の切符・旅の宿まで、インターネットなんだそうだ。

人間が他の生きものより、すぐれている万物の霊長たるところは、言葉を持った生きものであるからであろう。

その言葉を日常生活において、不用のものにしてしまったら、ほんとうに豊かな社会・豊かな人生を生きられるのだろうか？

人が人として生きる上で、自分以外の人と交わり、言葉を出せない人にはさらに関わりを深めて、ボディランゲージという手段。その時こそ、パソコンを使って助け合い、お互いに努力して生きる豊かな社会を目指したいものである。

先日、あかね元気寄席にたくさんの方々が集まって、落語を聞き、楽しい時間を過ごした。会場空間が一体となって、大声で笑い、感動し、三々五々帰りながら、「やっぱり、生はええなあ」「久しぶりに笑ったわあ」「ありがとう」のお声を頂き、百三十名が同じ時間と話題を共有して、人がつながっていることの大切さを味わった一日でした。

富田 啓子

# わたしは・生活支援員?!

先日、一人暮らしをしているNさんのお給料が、袋ごとなくなるといふことがあった。いつも、Nさんはお給料を貰うと、いったん家に持って帰り、再度作業所を持ってきて職員に渡して、一緒に銀行に預けに行くことになっている。

そして、必要な分だけ出金し、ヘルパーさんに毎日五百円ずつお財布に入れてもらう、ということになっている。

ところが、先月は、給料袋を作業所に持って来ない。本人に聞いても、「どこにいったかわからない。かばんに入れて、帰って帰ったことだけは覚えているけど。」という。

作業所で無くなったのか、帰宅途中に落としたのか、自宅でなくしたのか、皆、心配しながら数日が過ぎた。

それが結局、Nさんのリビングで見つかった。どうやらNさんが、しまっていたら

しい。そして、そのことをすっかり忘れていたようだ。よくよく聞いてみると、「ためておきたかった。ためて、いなり寿司が食べたかった。」とのこと。

一人暮らしを始める前、Nさんは、いつもわりとたくさんのお金を財布に入れ、一人で買い物に行き、自由に好きなものを買っていた。

天ぷら定食を食べたり、お惣菜やお菓子を買ったたり、スナック菓子やインスタントラーメンなど、どちらかというジャンクフードと呼ばれるものが好きだった。

けれども、一人暮らしを始めてから、食事は毎日用意してもらえ、買い物もほとんどヘルパーさんと一緒に、出来るだけ体に良いものを、との助言を受けたり、時にはヘルパーさんにおやつを頂いたりして、質素ながらも恵まれた生活を送っていた。

そんな中、毎日の五百円が減ることがなく、自分で自分の食べたいものを選ぶことも少なくなってきた。

そのことを気にして、職員もヘルパーさんも「好きなものを買いましょうね」と声をかけても、「なににもいらぬ」という。

好きないなり寿司だって、いざ、買う時になると、「いらぬ」という。

それでも、ガイドヘルパーと出かけた後などで、財布にいつもより多めにお金が入っていると、作業所に出勤しないで、川西周辺や梅田に出かけたりすることがあった。耳が聞こえにくく、目も見えにくくなっている、足元もおぼつかないNさんだからか、その都度、どこかで事件事故に巻き込まれていないか、どこに行ってしまった

毎日発行

一九九一年九月三日

第三種郵便物認可

頒価

定価

一〇〇円

のかと、みんな心配をする。・・・結局いつも、ケロリとした顔で帰ってくるのだが。

そんなことがあるので、余計に、Nさんのお金を「管理」してしまおう。

けれども、今回の給料袋紛失は、Nさんからの貴重な意思表示だと思った。

一所懸命働いて稼いだお給料を人に預け五百円ずつもらおう。毎日、何も買わなくても食べていけるし、服もヘルパーさんと一緒に買いに行ける。けれども、いつも、お金が足りないと思っているよう。

Nさんと相談した結果、今月から、Nさんのお給料は、Nさん自身で持つておいてつかうことになった。

私の作業所での立場は、(行政用語で)生活支援員なんだそう。支援、最近この言葉についてよく考える。

支援ってなんだろう? 支え、援助すること、何を?

私は、支援の名の下に、一人ひとりを、自分のなりたいたい人になってもらおうとしないだろうか?

危険な目にあった時、責任を取るのが怖くて、Nさんの自由を奪ってしまっていないだろうか?

忙しい日々アップあぶで、自分を振り返ることもままならないのに、そのサイクルに巻き込んでしまっていないだろうか? 何に向かって支援するのか?

決して平均的な人なんていないのに、みんな平均になろうともがいている。そんな窮屈さの中、人にも平均を押しつけている。もしも私が誰かを支援することが出来るなら、それは出来る限りその人がありのままに生きることが出来るよう、その人を見つめ受け入れ、認めて、もしそこに壁があるならそれを取り除いたり、乗り越えたり、回り道したりする方法を一緒に考え、足りないものがあるなら補っていく、そんなふうじゃないだろうか? 何によって満たされるかは人それぞれ違うけど、みんな満たされるために何かをしている。それはみんな一緒。本当に一緒。そんなことを感じ、迷いながら過ごす日々です。

岡田 小月

## あかねはうす ふれあい広場へのお誘い

日曜日を利用して、どなたでも気軽に集って、おしゃべりの花をさかせましょう! 友だち作りにご参加を!

地域の皆さまに支えられて25年。早いもので若かった? メンバーたちも25年の齢を重ねて、ポチポチ古い支度を・・・と考える今日この頃。昔を振り返ったり、これからの人生をゆったりと語りあいながら老化の予防につなげたいものです。若い人もお子様連れもどなたでも歓迎です。皆さまのお越しをお待ちしています。

第2・4日曜日 10:00~15:00 参加費(昼食代)500円 お茶も出来ませ送迎はご相談下さい  
あかねはうす 緑台 6-1-10 電話 072-792-4855 西友多田店向かい側

毎日発行

一九九一年九月三日

第三種郵便物認可

頒価

定価

一〇〇円

毎日発行

一九九一年九月三日

第三種郵便物認可

頒価

定価

一〇〇円

# 染二さんの素顔

〜大盛況・第三回あかね元氣寄席〜

(写真は打ち上げ会での染二師匠&奥さん&三味線の浅野さん他)短期留学した娘さんの話で大盛り上がり。目じりを下げてデレデレパバぶりで、みんな大笑い。

演目中の皆さんの笑い声や、日頃の鬱憤を忘れての笑顔。疲れが癒される元気を頂いた寄席となりました。ボランティアさんによる手作り高座、会場、座布団一枚の上に座り話し始めると「さすがプロ!」お客さんと一体となった異次元空間。新しく参

加下さる方も増え、今後とも地域の中の定番寄席として定着していけたらと思えます。ありがとうございます。渡邊 誠

## 〜青年ボランティア大活躍〜

やっばり、若いってすごい!先日のあかね妙見山ハイキングには上は八十代、下は三才まで、計四十名参加で楽しい一日を過ごせました。なかでも、昨年から繋がった関大の少林寺拳法部の皆さんがボランティアで参加。ロープで電車でこししながら登ったり、大縄跳びなどで、メンバーと楽しく過ごしてくれました。また、職員が飲み

屋で繋がったウッチーこと内田さんも参加。ありがとうございます。今後とも繋がっていきたいとおもいます。内海

## お出合い情報

〜あかね行事へのお誘い〜

① 5月2日(日) 竹の子堀りツアー  
参加費3500円

午前8時半JR川西池田集合  
② 6月20日(日) あかね作業所  
自家用車分乗で奈良天理の山里へ  
創立二十周年記念講演会

「共に生きる福祉社会の課題と今後の展望」(仮題) 講師未定

### 寄付金・カンパ・助成金

#### ご報告とお礼

(2010年1月~3月) NHK 歳末募金様

日高真紀子さん 山田・川本・松山さん  
小笠原弘さん 竹川應仁さん 高谷豊さん  
高木正泰さん ウィリアムボーグラーさん

林陽子さん 野島スマ子さん  
山内百合子さん 永井節子さん  
山崎昌子さん 熊本陽子さん

ありがとうございました!

毎日発行 一九九一年九月三日 第三種郵便物認可

頒価

定価 一〇〇円